

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

2014年 4月

## 復活節

### 祝御復活～トマスの疑い～

トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」(ヨハネ20:25)

司祭 ミカエル 小南 晃

キリスト教において最も大切なメッセージは、「十字架につけられて殺された主イエスが、三日目に復活された」というものです。

この喜ばしいメッセージは、弟子たちにとってもすぐには信じられないものでした。冒頭の聖句は、弟子の一人のトマスがイエスの復活を疑った話です。このことから、トマスは疑り深い人というイメージが来ています。

しかしこのトマスの言葉は、私たちの心の代弁とも言えます。彼は他の弟子たちから復活の主に出会ったことを伝えられました。そしてこれは2千年後の私たちの立場でもあります。私たちは復活の主を見たわけではなく、聖書を通して主イエス・キリストは復活したと伝えられ、信じるか否かが問われているからです。

#### 十字架の死への無念と怒り

注目したいのは、復活が信じられないとしても、トマスが「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、私は決して信じない」と言った、その過激な言葉の裏にある思いです。傷口に指や手をねじ込

むというのは残酷な行為です。敬愛していたイエスに対して本当はそのようなことが出来る筈がないのです。

トマスは、信じる気がないのでなく、「信じたいけれど信じられない」、その苛立ち、さらには「何故あのような悲劇が起こったのか、それこそ神も仏も無いではないか」、そんな激しい感情が心のなかにあるからこそ、ここまでの言葉を語らせたのではないでしょう

#### 無念と怒りの氷解する時

八日後、トマスの前に復活の主が現れました。そして主は「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい」と言われました。

先にトマスが手とわき腹の傷跡に指を入れて見なければと言った時のイエスの傷跡とは、彼にとって、復活の主がイエスかどうかを知るための証拠でしかありませんでした。しかしイエスがこのように言われた時、もはやトマスはそのようなことは出来ませんでした。何故ならそれは敬愛する主イエスが十字架上で苦しみを忍ばれ

た跡であり、それは全ての人間の罪を負われ、贖われたことのあるしだからです。

イエスは彼に「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」そして「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」と言われました。トマスはただ「わたしの主、わたしの神よ」と叫ぶのみでした。

#### 疑いと葛藤を通り抜けて

復活についての問いが、私たちに疑いや葛藤を生む時にこそ、実はこの問いが本当に受けとめられた時なのです。復活信仰は、単に復活を信じるか否かと言う二者択一の質問ではなく、私たちが様々な絶望、挫折、恐れといった試練に遭う時に、その状況の中で問われているものだからです。時として私たちは、心の内で神への恨み言を連ねることもあるかも知れません。しかしそんな自分を主イエスは赦し、愛して下さっている、それが主の十字架だったことを知り、さらにその主は生きておられることを受け入れられた時に、感謝と喜びをもって「主よ、わが神よ」と告白することになるでしょう。

私たちが、何かの試練の中で「復活なんて信じられない」、「神も仏もあるものか」と言った感情が起こった時、トマスの疑いと、それを超えての信仰を思い起こしたいものです。

#### 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
 " 9時15分 教会学校  
 " 10時30分 聖餐式・説教  
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
 土 午前10時30分 教会掃除  
 (ご奉仕をお願いします)